

授業科目	一般臨床医学			担当者	西村 朋浩 他	(オムニバス)
学 科 名	理学療法学科	学 年	2年	総単位数	1単位	
		開講時期	前期	選択・必修	必修	
内 容	理学療法に関連する各種診療科における主な疾患の病態、診断、治療、について学ぶ。					
到達目標	学習する疾患の特徴を知り、リハビリテーションを行う上での一助とすること。					
授業計画						
第1回 外科総論						
第2回 皮膚科学						
第3回 泌尿器・生殖器疾患						
第4回 眼科疾患						
第5回 公衆衛生						
第6回 公衆衛生						
第7回 栄養						
第8回 栄養						
評価方法						
平常点(受講態度や授業での取り組み内容など) 100%						
授業時間外の学習(予習・復習等)について						
指定教科書はありません。必ず講義内容を整理しておくこと。						
授業時間外の質問について						
授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えします。						
教科書						
書名						
著者名						
出版社						
参考図書						
書名						
著者名						
出版社						
留意事項						
<p>本授業は、対面での実施を基本とするが、緊急時など必要に応じて遠隔授業(リアルタイム配信型またはオンデマンド型)に変更することがある。実施方法の変更については、講義支援システムMoodleなどを通じて通知する。</p> <p>また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、評価方法を変更することがある。評価方法の変更については各科目担当者より、別途通知する。</p>						

授業科目	運動器疾患・スポーツ障害の理学療法		担当者	非掲載	(オムニバス)
学科名	理学療法学科	学 年	2年	総単位数	4単位
		開講時期	通年	選択・必修	必修
内 容	スポーツ障害を含む運動器疾患の理学療法を学ぶ。				
到達目標	運動器疾患に対する評価と運動療法を理解し、基本的な技術を習得する。				
授業計画					
第1回 ガイダンス、運動器疾患に対する理学療法の基礎					
第2回 スポーツ障害に対する理学療法の基礎					
第3回 コンディショニング指導の実際(ストレッチング)					
第4回 肩関節疾患に対する理学療法(1)					
第5回 肩関節疾患に対する理学療法(2)					
第6回 肩関節疾患に対する理学療法(3)					
第7回 肩関節疾患に対する理学療法(4)					
第8回 肩関節疾患に対する理学療法(5)					
第9回 肘関節・前腕の疾患に対する理学療法					
第10回 手関節・頸部の疾患に対する理学療法					
第11回 腰痛症に対する理学療法					
第12回 腰椎椎間板ヘルニア、腰椎分離症・分離すべり症に対する理学療法					
第13回 腰部疾患に対する理学療法の実際					
第14回 上肢・体幹の運動器疾患に対する理学療法技術(1)					
第15回 上肢・体幹の運動器疾患に対する理学療法技術(2)、小テスト					
第16回 股関節疾患に対する理学療法(1)大腿骨頸部骨折					
第17回 股関節疾患に対する理学療法(2)大腿骨頸部骨折(実技)					
第18回 股関節疾患に対する理学療法(3)変形性股関節症					
第19回 股関節疾患に対する理学療法(4)変形性股関節症(実技)					
第20回 下肢の柔軟性評価(実技)					
第21回 膝関節疾患に対する理学療法(1)変形性膝関節症					
第22回 膝関節疾患に対する理学療法(2)変形性膝関節症(実技)					
第23回 靭帯損傷:足関節					
第24回 膝関節疾患に対する理学療法(3)ACL損傷①					
第25回 膝関節疾患に対する理学療法(4)ACL損傷②(実技)					
第26回 膝関節疾患に対する理学療法(5)ACL損傷③					
第27回 膝関節疾患に対する理学療法(6)ACL損傷④(実技)					
第28回 膝関節疾患に対する理学療法(7)ACL損傷⑤					
第29回 膝関節疾患に対する理学療法(8)ACL損傷⑥(実技)					
第30回 膝関節疾患に対する理学療法(9)PCL・MCL損傷①					
評価方法					
前期:筆記試験 85% 小テスト 15%					
後期:筆記試験 100%					

授業時間外の学習(予習・復習等)について

事前学習として当該箇所の解剖学、運動学の知識を復習、整理しておくこと。

授業時間外の質問について

授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えします。

教科書

書名	運動器の運動療法
著者名	小柳磨毅・中江徳彦・井上 悟編
出版社	羊土社
書名	明解スポーツ理学療法 図と動画で学ぶ基礎と実践
著者名	堀部秀二 監修、小柳磨毅・境 隆弘・三谷保弘・松尾高行 編集
出版社	三輪書店

参考図書

書名	整形外科疾患の理学療法 第2版
著者名	河村広幸・小柳磨毅
出版社	金原出版
書名	実践PTノート 第2版
著者名	小柳磨毅
出版社	三輪書店
書名	骨関節理学療法学
著者名	小柳磨毅編
出版社	医学書院
書名	スポーツ傷害の理学療法 第2版
著者名	福井勉・小柳磨毅編
出版社	三輪書店
書名	アスリートケア
著者名	アスリートケア編
出版社	三輪書店
書名	スポーツ膝の臨床 第2版
著者名	史野根生
出版社	金原出版

留意事項

実技を行うので、動きやすく、触察が可能な服装を予め着用しておくこと。評価に必要な物品(ゴニオメータ、メジャー等)を用意しておくこと。

本授業は、対面での実施を基本とするが、必要に応じて多様なメディアを高度に利用し、教室等以外の場所で授業運営をすることがある。(遠隔授業)授業の実施方法(対面・遠隔)について、変更があった場合は講義支援システム(Moodle)を通じて周知する。また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、「定期試験(筆記試験/期末試験)」による評価方法を「レポート試験」「小テスト」「WEB試験」等に変更する可能性がある。評価方法の変更については、各科目担当者より、別途通知する。

授業科目	運動療法学			担当者	近藤 圭三 他	□実務教員
学 科 名	理学療法学科	学 年	2年	総単位数	6単位	(オムニバス)
		開講時期	通年	選択・必修	必修	
内 容	運動療法の理論と実技について基礎より学ぶ。					
到 達 目 標	運動療法の基礎的技術を安全に効果的に行うことができる。					
実務教員による授業	臨床経験豊富なエキスパートの講師が、最新の知見を基に講義と実技を行う。 【講師略歴】 近藤圭三(理学療法士) 関西医科大学香里病院 リハビリテーション科勤務 今井義廣(理学療法士) 関西医科大学総合医療センター リハビリテーション科勤務 金 光浩(理学療法士, 副技師長) 関西医科大学附属病院 リハビリテーション科勤務 濱田真一(理学療法士) 関西医科大学附属病院 リハビリテーション科勤務					
授業計画						
第1回 運動療法学 概論基礎1						
第2回 筋力増強運動の理論1						
第3回 関節可動域運動の基礎1						
第4回 運動療法学 概論基礎2						
第5回 筋力増強運動の理論2						
第6回 関節可動域運動の基礎2						
第7回 軟部組織伸長法の理論1						
第8回 筋力増強運動 実技1						
第9回 関節可動域運動の実技1						
第10回 軟部組織伸長法の理論2						
第11回 筋力増強運動 実技2						
第12回 関節可動域運動の実技2						
第13回 筋伸長運動 実技1						
第14回 筋力増強運動 実技3						
第15回 関節可動域運動の実技3						
第16回 神経筋再教育の理論1						
第17回 全身調整運動の理論						
第18回 協調整運動の理論						
第19回 神経筋再教育と神経生理学的アプローチ						
第20回 神経筋再教育と神経生理学的アプローチ						
第21回 協調整運動の理論2						
第22回 神経生理学的アプローチ実技1						
第23回 全身調整運動実技1						
第24回 協調整運動実技1						
第25回 神経生理学的アプローチ・神経生理学的アプローチ実技2						
第26回 全身調整運動実技2						
第27回 協調整運動実技2						
第28回 神経筋再教育と神経生理学的アプローチ実技まとめ						
第29回 全身調整運動実技まとめ						

第30回 協調整運動実技まとめ
第31回 運動療法学 概論基礎1
第32回 関節可動域運動の基礎1
第33回 関節可動域運動の実技1
第34回 関節可動域運動の実技2
第35回 関節可動域運動の実技3
第36回 関節可動域運動の実技4
第37回 関節可動域運動の実技5
第38回 関節可動域運動の実技6
第39回 関節可動域運動の実技7
第40回 持久力運動の基礎1
第41回 持久力運動の実技1
第42回 持久力運動の実技2
第43回 全身調整運動の基礎1
第44回 全身調整運動の実技1
第45回 全身調整運動の実技2
評価方法
筆記試験95%(前期試験2/3、後期試験1/3の割合で評価します) 定期的な検査に加え、授業中の実技の達成度および授業態度5%
授業時間外の学習(予習・復習等)について
初年度で習った解剖学および運動学全般の復習。 予定する項目の解剖学的、運動学的予習。
授業時間外の質問について
授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えするとともにメールでも受け付けております。 授業時間外の場合は、教務事務を通じて、回答いたしますので、以下のアドレスにメールしてください。
メールアドレス
kyomu@ocr.ac.jp

教科書	書名	運動療法 I
	著者名	監修 千住 秀明
	出版社	神陵文庫
参考図書	書名	
	著者名	
	出版社	
留意事項	<p>本授業は、対面での実施を基本とするが、緊急時など必要に応じて遠隔授業(リアルタイム配信型またはオンデマンド型)に変更することがある。実施方法の変更については、講義支援システム Moodle などを通じて通知する。</p> <p>また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、評価方法を変更することがある。評価方法の変更については各科目担当者より、別途通知する。</p>	

授業科目	物理療法学			担当者	太田 幸志	□実務教員
学科名	理学療法学科	学 年	2年	総単位数	2単位	
		開講時期	前期	選択・必修	必修	
内 容	物理療法を実施するために必要となる知識を習得し、実習を通じて各種物理療法の使用方法を学習する。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・各種物理療法における適応と禁忌、リスク管理について説明できる。 ・物理療法の特徴を理解し、根拠に基づく治療を選択、施行できる。 ・疾患や病態に対して適切な治療方法を考えることができる。 					
実務教員による授業	臨床経験豊富なエキスパートの講師が、最新の知見を基に講義を行う。					
授業計画						
第1回 物理療法学総論						
第2回 疼痛、炎症						
第3回 温熱療法①						
第4回 温熱療法②						
第5回 温熱療法③						
第6回 寒冷療法						
第7回 光線療法						
第8回 電気刺激療法①						
第9回 電気刺激療法②						
第10回 水治療法						
第11回 牽引療法						
第12回 その他の物理療法						
第13回 総合演習①						
第14回 総合演習②						
第15回 実技試験						

評価方法	
定期試験	90%
実技試験	10%
授業時間外の学習(予習・復習等)について	
授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えするとともにメールでも受け付けております。授業時間外の場合は、以下のアドレスにメールしてください。	
メールアドレス	koji.ota@ocr.ac.jp
教科書	ご指定いただいた教科書は書店を通じて一括販売いたします。
書名	標準理学療法学 専門分野 物理療法学
著者名	編集:網本和 菅原憲一
出版社	医学書院
参考図書	ご指定いただいた参考図書は図書館で所蔵し、学生に提供します。
書名	
著者名	
出版社	
留意事項	
<p>本授業は、対面での実施を基本とするが、必要に応じて多様なメディアを高度に利用し、教室等以外の場所で授業運営をすることがある。(遠隔授業)授業の実施方法(対面・遠隔)について、変更があった場合は講義支援システム(Moodle)を通じて周知する。また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、「定期試験(筆記試験/期末試験)」による評価方法を「レポート試験」「小テスト」「WEB試験」等に変更する可能性がある。評価方法の変更については、各科目担当者より、別途通知する。</p>	

授業科目	義肢装具学			担当者	須藤 圭治	<input type="checkbox"/> 実務教員
学科名	理学療法学科	学 年	2年	総単位数	2単位	
		開講時期	後期	選択・必修	必修	
内 容	義肢装具の座学と実習					
到達目標	義肢装具の基礎知識と基本技術の習得					
実務教員による授業	臨床経験豊富なエキスパートの講師が、最新の知見を基に講義と実技を行う。 【講師略歴】 理学療法士 よどき医療と介護のまちづくり 勤務					
授業計画						
第1回 装具学総論						
第2回 短下肢装具、長下肢装具						
第3回 片麻痺の装具						
第4回 対麻痺の装具						
第5回 小児、神経筋疾患の装具						
第6回 骨関節疾患の装具						
第7回 足部の装具						
第8回 実習 フットプリンターでの採型						
第9回 義肢学総論						
第10回 大腿切断						
第11回 下腿切断						
第12回 股離断・膝離断・サイム切断・足切断						
第13回 義足の理学療法①・・・評価・運動療法 実習（ソフトドレッシング）						
第14回 義足の理学療法②・・・立位・歩行練習 実習（義足装着模擬体験）						
第15回 在宅における義肢装具 総括						
評価方法						
筆記試験90% 実技テスト10%						
授業時間外の学習(予習・復習等)について						
授業内でお伝えします。						
授業時間外の質問について						
授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えするとともにメールでも受け付けております。授業時間外の場合は、教務事務を通じて、回答いたしますので、以下のアドレスにメールしてください。						
メールアドレス			kyomu@ocr.ac.jp			

教科書	書名 理学療法テキスト「装具学」「義肢学」
	著者名 石川 朗 編
	出版社 中山書店
参考図書	書名 義肢装具学のチェックポイント
	著者名 日本整形外科学会他監修
	出版社 医学書院
参考図書	書名 義肢装具学
	著者名 川村次郎 編
	出版社 医学書院
参考図書	書名 義肢装具学 異常とその対応がわかる動画付き
	著者名 高田治美 監修
	出版社 羊土社
留意事項	<p>本授業は、対面での実施を基本とするが、緊急時など必要に応じて遠隔授業(リアルタイム配信型またはオンデマンド型)に変更することがある。実施方法の変更については、講義支援システム Moodle などを通じて通知する。</p> <p>また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、評価方法を変更することがある。評価方法の変更については各科目担当者より、別途通知する。</p>

授業科目	救命救急医学		担当者	笠原 弘樹 他	(オムニバス)
学科名	理学療法学科	学 年	2年	総単位数	1単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修
内 容	理学療法実施場面で、対象者の急変に対応できる能力を培う。救急医学の基礎を教授する。				
到達目標	①緊急を要する病態や疾患・外傷の基礎的な知識と考え方を学ぶ。 ②心肺蘇生、応急処置の方法について学ぶ。 ③臨床の実際を想定し、必要な知識を再確認し対応について検討する。				
授業計画					
第1回 救急救命について					
第2回 バイタルサインを捉える					
第3回 「BLSの概略」と「救命の連鎖」について					
第4回 疾患別の病態、観察項目と対応について					
第5回 臨床現場での事例と危険予測 KYT					
第6回 臨床現場でのリスク管理と急変時の気づきと対応					
第7回 心肺蘇生方法について① 実技 BLS 胸骨圧迫と気道換気方法					
第8回 心肺蘇生方法について② 実技 BLS 一連の流れ AED含む					
評価方法					
筆記試験 100%					
授業時間外の学習(予習・復習等)について					
各回、講義内容の主要点を確認し、再整理をして下さい。(復習、整理を要します。)					
授業時間外の質問について					
授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えします。					
生じた質問事項は、直接授業後に担当者に問い合わせるか、担当専任教員に相談してください。					
教科書					
書名	改訂第3版BLS:写真と動画でわかる一次救命処置				
著者名	小林正直(監修), 石見拓(監修), 特定非営利活動法人大阪ライフサポート協会(著, 編集)				
出版社	学研メディカル秀潤社; 改訂第3版(2017/1/31)				
参考図書					
書名					
著者名					
出版社					
留意事項					
講義の後半には、実際に自己の身体の動き(実技)を通じて学習理解と、行動力、判断力を高めたい。ジャージを着用。					
本授業は、対面での実施を基本とするが、緊急時など必要に応じて遠隔授業(リアルタイム配信型またはオンデマンド型)に変更することがある。実施方法の変更については、講義支援システムMoodleなどを通じて通知する。					
また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、評価方法を変更することがある。評価方法の変更については各科目担当者より、別途通知する。					

授業科目	健康・代謝・呼吸障害の理学療法		担当者	太田 信也 他	<input type="checkbox"/> 実務教員
学科名	理学療法学科	学 年	2年	総単位数	2単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修
内 容	呼吸障害に対する理学療法の評価、治療アプローチ、リスク管理等の学習を行う				
到達目標	理学療法評価、治療アプローチ、リスク管理等を理解する				
実務教員による授業	【講師略歴】 ・太田信也(理学療法士) 大阪府済生会吹田病院 リハビリテーション科勤務 畿央大学大学院健康科学研究科修士課程修了 認定資格:3学会合同呼吸療法認定士、認定理学療法士(呼吸) ・山田忠明(理学療法士) 大阪府済生会吹田病院リハビリテーション科勤務 認定資格:糖尿病療養指導士、3学会呼吸療法認定士、認定理学療法士(徒手理学療法・代謝)				
授業計画	第1回 呼吸リハビリテーション総論、呼吸器の解剖学・生理学・運動学 講義 第2回 呼吸障害の疾患理解、呼吸理学療法評価 講義 第3回 理学療法評価 実習 第4回 理学療法評価 実習 第5回 理学療法 治療アプローチ実習 第6回 理学療法 治療アプローチ実習 第7回 集中治療領域、人工呼吸器装着患者への呼吸理学療法 第8回 代謝・嚥下について 第9回 糖尿病(概要) 第10回 糖尿病(病態) 第11回 糖尿病(合併症) 第12回 糖尿病(治療) 第13回 糖尿病(治療) 第14回 糖尿病(患者の心理と行動) 第15回 まとめ				
評価方法	筆記試験 100%				
授業時間外の学習(予習・復習等)について	適宜授業中にお伝えします。				
授業時間外の質問について	授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えするとともにメールでも受け付けております。 授業時間外の場合は、教務事務を通じて、回答いたしますので、以下のアドレスにメールしてください。				
メールアドレス	kyomu@ocr.ac.jp				

教科書	
書名	動画でわかる呼吸リハビリテーション 第5版
著者名	高橋仁美
出版社	中山書店
参考図書	
書名	
著者名	
出版社	
留意事項	
<p>実習にて聴診器を使用します。必要時は事前にお知らせします。</p> <p>本授業は、対面での実施を基本とするが、緊急時など必要に応じて遠隔授業(リアルタイム配信型またはオンデマンド型)に変更することがある。実施方法の変更については、講義支援システム Moodle などを通じて通知する。</p> <p>また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、評価方法を変更することがある。評価方法の変更については各科目担当者より、別途通知する。</p>	

授業科目	循環器障害の理学療法			担当者	北浦 重孝	
学科名	理学療法学科	学 年	2年	総単位数	1単位	
		開講時期	後期	選択・必修	必修	
内 容	循環器の解剖生理から、循環器障害の理学療法の中心となる心疾患の病態、評価、処方や理学療法の実際について講義いたします。					
到達目標	理学療法士として臨床に必要な循環器および循環器障害の基礎の習得と、国家試験に対応できる知識の習得を目標とします。					
授業計画						
第1回 循環器の解剖、生理						
第2回 循環器疾患の病態						
第3回 心電図						
第4回 不整脈						
第5回 循環器障害の評価						
第6回 循環器障害の評価・処方						
第7回 循環器障害の処方						
第8回 復習・まとめ						
評価方法						
筆記試験を実施し、規定の点数に達する場合に合格とします。(100%)						
授業時間外の学習(予習・復習等)について						
解剖学や生理学(心臓や血管、運動生理など)の基礎について授業を受ける前に復習しておいてください。						
授業時間外の質問について						
授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えするとともにメールでも受け付けております。授業時間外の場合は、以下のアドレスにメールしてください。						
メールアドレス				f13293@ocr.ac.jp		
教科書						
書名						
著者名						
出版社						
参考図書						
書名 標準理学療法(専門分野)内部障害理学療法						
著者名 奈良勲監修 吉尾雅春、高橋哲也編集						
出版社 医学書院						
書名 循環器理学療法の理論と技術						
著者名 増田卓、松永篤彦編集						
出版社 メジカルビュー社						
留意事項						
本授業は、対面での実施を基本とするが、緊急時など必要に応じて遠隔授業(リアルタイム配信型またはオンデマンド型)に変更することがある。実施方法の変更については、講義支援システム Moodle などを通じて通知する。 また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、評価方法を変更することがある。評価方法の変更については各科目担当者より、別途通知する。						

授業科目	小児科学		担当者	専任教員	(オムニバス)
学科名	理学療法学科	学 年	2年	総単位数	1単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修
内 容	小児の特徴・発達・疾患を学び、理学療法士として関わる上での知識の活用について学ぶ。				
到達目標	理学療法士として子どもさんに関わる上で必要な小児の特徴・発達・疾患に関する知識の基本を理解する。				
授業計画					
第1回 けいれん性疾患・アレルギー疾患					
第2回 腎泌尿器疾患・呼吸器疾患・血液疾患					
第3回 代謝疾患・内分泌疾患					
第4回 循環器疾患・消化器疾患					
第5回 小児の事故・救急処置・眼科耳鼻咽喉科・乳幼児の栄養・栄養性疾患・小児の生活					
第6回 神経筋疾患・運動器疾患					
第7回 小児保健・感染性疾患					
第8回 心身症と関連疾患					
評価方法					
筆記試験 100%で判定する。					
授業時間外の学習(予習・復習等)について					
重要な事項を復習する為に、学習の要点を示します。					
授業時間外の質問について					
随時、受け付けます。					
教科書					
書名	最新育児小児病学				
著者名	監修/黒田 泰弘		編集/香美 祥二、森 健治		
出版社	南江堂				
参考図書					
書名	子どもの病気の地図帳				
著者名	監修/鴨下 重彦、柳澤 正義				
出版社	講談社				
留意事項					
<p>本授業は、対面での実施を基本とするが、緊急時など必要に応じて遠隔授業(リアルタイム配信型またはオンデマンド型)に変更することがある。実施方法の変更については、講義支援システムMoodleなどを通じて通知する。</p> <p>また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、評価方法を変更することがある。評価方法の変更については各科目担当者より、別途通知する。</p>					

授業科目	小児期の理学療法			担当者	横田 浩子	
学科名	理学療法学科	学 年	2年	総単位数	2単位	
		開講時期	前期	選択・必修	必修	
内 容	正常運動発達や、小児期の種々の疾患を学び。成人と相違を学ぶ。					
到達目標	発達期の小児の障害の特異性を理解し、小の疾患の評価・治療に必要な項目を想起出来る。					
授業計画						
第1回 成長と発達について						
第2回 新生児の感覚運動発達						
第3回 正常感覚運動発達①						
第4回 正常感覚運動発達②						
第5回 正常感覚運動発達③						
第6回 正常感覚運動発達④						
第7回 正常感覚運動発達⑤						
第8回 小児の運動発達障害について						
第9回 小児期の脳障害Ⅰ						
第10回 小児期の脳障害Ⅱ						
第11回 小児期の脳障害Ⅲ						
第12回 小児期の各種疾患Ⅰ						
第13回 小児期の各種疾患Ⅱ						
第14回 小児期の評価と治療						
第15回 まとめ						
評価方法						
課題レポート 10% 試験問題90%						
授業時間外の学習(予習・復習等)について						
正常発達を学ぶことにより、異常発達が理解でき、障害の評価・治療が可能になることを念頭に置き、講義に臨むこと。授業後は該当するページを復習し、授業の内容の理解を深めること。						
授業時間外の質問について						
授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えします。						
教科書						
	書名	小児理学療法学テキスト				
	著者名	監修 細田多恵				
	出版社	南江堂				
参考図書						
	書名	写真でみる乳幼児健診の神経学的チェック法				
	著者名	前川喜平・小枝達也 著				
	出版社	南山堂				
留意事項						
小児においても、基本的理学療法の評価・治療は成人のものとはほぼ同じですが、理学療法の評価・治療を成人と比較し、その相違点や小児の特異性を楽しく学んで下さい。						
本授業は、対面での実施を基本とするが、緊急時など必要に応じて遠隔授業(リアルタイム配信型またはオンデマンド型)に変更することがある。実施方法の変更については、講義支援システム Moodle などを通じて通知する。						
また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、評価方法を変更することがある。評価方法の変更については各科目担当者より、別途通知する。						

授業科目	神経筋障害の理学療法			担当者	小林 瑞季・橋田 剛一 他	(オムニバス)
学科名	理学療法学科	学 年	2年	総単位数	1単位	
		開講時期	後期	選択・必修	必修	
内 容	本講義では、症例紹介を含めた臨床講義の要素をできるだけ取り入れて行う予定である。(講義形式により、講義内の動画使用等については教務先生方と相談のうえ対応する。)					
到達目標	神経筋疾患に対する理学療法について、その基本を理解する。					
授業計画						
第1回 神経筋障害の理学療法(総論)						
第2回 脊髄小脳変性症・多系統萎縮症に対する理学療法						
第3回 パーキンソン病に対する理学療法						
第4回 筋萎縮性側索硬化症に対する理学療法						
第5回 多発性硬化症・視神経脊髄炎に対する理学療法						
第6回 ニューロパチーに対する理学療法: ギラン・バレー症候群(慢性炎症性脱髄性多発根ニューロパチー)を中心に						
第7回 筋疾患に対する理学療法 :多発性筋炎を中心に						
第8回 その他の神経筋疾患に対する理学療法						
評価方法						
筆記試験にて評価する(100%)						
授業時間外の学習(予習・復習等)について						
神経内科学の講義資料や病気がみえるvol.7で、シラバスに記載した各疾患の復習をしておくとう理解が深まる。						
授業時間外の質問について						
授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えします。						
教科書						
書名						
著者名						
出版社						
参考図書						
書名 病気がみえる vol.7 脳・神経(第2版)						
著者名 医療情報科学研究所						
出版社 メディックメディア						
書名 標準理学療法学 神経理学療法学 第3版						
著者名 監修:奈良勲,編集:吉尾雅春/森岡周/阿部浩明						
出版社 医学書院						
書名 ベッドサイドの神経の診方 改訂第18版						
著者名 田崎義昭 著、斎藤佳雄 著						
出版社 南山堂						
留意事項						
講義内容の順番については講師の都合により変動することもありますので、ご了承ください。						
本授業は、対面での実施を基本とするが、緊急時など必要に応じて遠隔授業(リアルタイム配信型またはオンデマンド型)に変更することがある。実施方法の変更については、講義支援システム Moodle などを通じて通知する。						
また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、評価方法を変更することがある。評価方法の変更については各科目担当者より、別途通知する。						

授業科目	神経内科学			担当者	中平 剛志 他	(オムニバス)
学科名	理学療法学科	学 年	2年	総単位数	1単位	
		開講時期	後期	選択・必修	必修	
内 容	臨床神経学全般を学習します。					
到達目標	国家試験に対応できるレベルを目指します。					
授業計画						
第1回 神経内科総論 解剖・症候						
第2回 神経内科総論 解剖・症候						
第3回 神経内科総論 運動、感覚、自律神経						
第4回 神経内科総論 運動、感覚、自律神経						
第5回 神経内科総論 脳神経、検査						
第6回 神経内科総論 脳神経、検査						
第7回 脳血管障害						
第8回 脳血管障害						
第9回 腫瘍、外傷、脊髄、奇形						
第10回 腫瘍、外傷、脊髄、奇形						
第11回 認知症、水頭症、高次脳機能障害、感染症						
第12回 認知症、水頭症、高次脳機能障害、感染症						
第13回 変性疾患、てんかん、機能的疾患						
第14回 変性疾患、てんかん、機能的疾患						
第15回 神経筋接合部・筋疾患、末梢神経障害、脱髄、中毒・代謝性疾患						
評価方法						
筆記試験100%で判定します。						
授業時間外の学習(予習・復習等)について						
各回、必ず復習を行うことが重要です。						
授業時間外の質問について						
随時受け付けます。						
教科書						
ご指定いただいた教科書は書店を通じて一括販売いたします。						
書名	病気がみえる 脳・神経					
著者名						
出版社	medic media					
参考図書						
ご指定いただいた参考図書は図書館で所蔵し、学生に提供します。						
書名	ベッドサイドの神経の診かた					
著者名						
出版社	南山堂					
留意事項						
本授業は、対面での実施を基本とするが、必要に応じて多様なメディアを高度に利用し、教室等以外の場所で授業運営をすることがある。(遠隔授業)授業の実施方法(対面・遠隔)について、変更があった場合は講義支援システム(Moodle)を通じて周知する。また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、「定期試験(筆記試験/期末試験)」による評価方法を「レポート試験」「小テスト」「WEB試験」等に変更する可能性がある。評価方法の変更については、各科目担当者より、別途通知する。						

授業科目	整形外科学			担当者	藤井 敏之	
学科名	理学療法学科	学 年	2年	総単位数	2単位	
		開講時期	通年	選択・必修	必修	
内 容	整形外科の基礎と臨床を学習し、メディカルスタッフとして必要な知識を習得する					
到達目標	整形外科疾患を学習し、運動器リハビリテーションに活用できること。					
授業計画						
第1回 整形外科とリハビリテーションの役割						
第2回 外傷Ⅰ(骨折)						
第3回 外傷Ⅱ(関節脱臼)						
第4回 骨関節の感染症						
第5回 骨代謝と骨粗鬆症						
第6回 スポーツ障害と外傷						
第7回 末梢神経損傷と障害						
第8回 骨軟部腫瘍						
第9回 小児の外傷(骨折)						
第10回 関節リウマチの診断						
第11回 関節リウマチの治療						
第12回 脊髄損傷の診断と治療						
第13回 関節リウマチ類縁疾患						
第14回 整形外科治療総論(保存療法・手術療法)						
第15回 前期のまとめ						
第16回 整形外科トピックス						
第17回 膝関節変性疾患						
第18回 膝関節の外傷と障害						
第19回 慢性関節疾患(退行性、代謝性)						
第20回 小児整形外科						
第21回 肩関節疾患						
第22回 手外科						
第23回 脊椎疾患(総論)						
第24回 肘関節疾患						
第25回 脊椎疾患(各論①頸椎)						
第26回 股関節疾患						
第27回 脊椎疾患(各論②腰椎)						
第28回 足の外科						
第29回 運動器疾患のリハビリテーション						
第30回 後期のまとめ						

評価方法	
筆記試験 100%	
授業時間外の学習(予習・復習等)について	
各講義後に配布するレジメを復習	
授業時間外の質問について	
授業時間外の質問は教務事務(kyomu@ocr.ac.jp)を通じて依頼があればお答えします。	
教科書	
書名	標準整形外科学(第15版)
著者名	編集 井樋栄二・吉川秀樹・津村弘・田中栄・高木理彰
出版社	医学書院
参考図書	
書名	
著者名	
出版社	
留意事項	
<p>本授業は、対面での実施を基本とするが、緊急時など必要に応じて遠隔授業(リアルタイム配信型またはオンデマンド型)に変更することがある。実施方法の変更については、講義支援システム Moodle などを通じて通知する。</p> <p>また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、評価方法を変更することがある。評価方法の変更については各科目担当者より、別途通知する。</p>	

授業科目	生活環境論			担当者	松井 奈穂子	
学科名	理学療法学科	学 年	2年	総単位数	1単位	
		開講時期	後期	選択・必修	必修	
内 容	環境と生活動作や行為との関連性を学ぶ。					
到達目標	理学療法士の視点で対象者の生活環境を調整する目的や方法を考えられるようになる。					
授業計画						
第1回 オリエンテーション、生活環境論とは						
第2回 生活環境の評価						
第3回 法的諸制度						
第4回 福祉リハビリテーション関連機器 1						
第5回 学外実習:福祉リハビリテーション関連機器 2						
第6回 住宅環境						
第7回 地域環境・公共交通						
第8回 演習・総まとめ						
評価方法						
筆記試験 80% 小テスト 10% レポート 10% で総合的に判断する。						
授業時間外の学習(予習・復習等)について						
関連の深い日常生活活動学を復習しておくこと。						
授業時間外の質問について						
授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えするとともにメールでも受け付けております。授業時間外の場合は、以下のアドレスにメールしてください。						
メールアドレス		naoko.matsui@ocr.ac.jp				
教科書						
書名		「標準理学療法学 専門分野 日常生活活動学・生活環境学」				
著者名		奈良 勲 監修				
出版社		医学書院				
参考図書						
書名		「理学療法学テキスト第10巻 生活環境論」				
著者名		千住 秀明 監修				
出版社		神陵文庫				
書名		「生活環境論-生活支援の視点と方法-」				
著者名		木村 哲彦 監修				
出版社		医歯薬出版株式会社				
留意事項						
社会的側面に目を向け、より総合的に対象者を考えることが出来る理学療法士になるために重要な教科である。演習では多くの考えを活かし広い視点で考えること。						
本授業は、対面での実施を基本とするが、緊急時など必要に応じて遠隔授業(リアルタイム配信型またはオンデマンド型)に変更することがある。実施方法の変更については、講義支援システムMoodleなどを通じて通知する。						
また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、評価方法を変更することがある。評価方法の変更については各科目担当者より、別途通知する。						

授業科目	精神医学			担当者	西田 斉二	
学科名	理学療法学科	学 年	2年	総単位数	1単位	
		開講時期	前期	選択・必修	必修	
内 容	精神医学の基礎的知識を習得し、精神障害を持って生活している方々の医学的、心理的、社会的理解を目指す。					
到達目標	精神疾患、医学的変遷や現状、基本概念、疾患別の特性や支援の実際についての知識を深める。					
授業計画						
第1回 オリエンテーション 精神障害について						
第2回 感情障害						
第3回 統合失調症1						
第4回 統合失調症2 確認テスト1						
第5回 神経症性障害						
第6回 薬物関連疾患						
第7回 認知症1						
第8回 認知症2 確認テスト2						
評価方法						
小テスト20% 定期テスト80%						
授業時間外の学習(予習・復習等)について						
<p>主要な疾患のカテゴリーごとに一度小テストを行います(計2回予定)。小テストは前回までの内容および当日の授業の内容が範囲となり、当日の最後に行います。定期的に小テストを行うため、その都度、予習復習をしておいてください。</p>						
授業時間外の質問について						
<p>授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えするとともにメールでも受け付けております。授業時間外の場合は、教務事務を通じて、回答いたしますので、以下のアドレスにメールしてください。</p>						
メールアドレス			kyomu@ocr.ac.jp			
教科書						
書名		標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学				
著者名		奈良勲 鎌倉矩子 監修				
出版社		医学書院				
留意事項						
<p>本授業は、対面での実施を基本とするが、緊急時など必要に応じて遠隔授業(リアルタイム配信型またはオンデマンド型)に変更することがある。実施方法の変更については、講義支援システム Moodle などを通じて通知する。</p> <p>また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、評価方法を変更することがある。評価方法の変更については各科目担当者より、別途通知する。</p>						

授業科目	脊髄損傷の理学療法			担当者	西村 朋浩	
学科名	理学療法学科	学 年	2年	総単位数	1単位	
		開講時期	後期	選択・必修	必修	
内 容	脊髄損傷の病態・障害を理解し、理学療法について学習する。					
到達目標	損傷レベルによる病態を理解し、機能障害、日常生活動作、環境設定について理解する。脊髄損傷の合併症を理解し、日常生活への影響および理学療法を把握する。					
授業計画						
第1回 脊髄の解剖と機能						
第2回 損傷レベル別の理学療法①						
第3回 損傷レベル別の理学療法②						
第4回 脊髄損傷の理学療法評価						
第5回 脊髄損傷の合併症①						
第6回 脊髄損傷の合併症②						
第7回 脊髄損傷の合併症③						
第8回 まとめ						
評価方法						
定期試験100%						
授業時間外の学習(予習・復習等)について						
key muscleを理解すること、体性神経および自律神経の機能を理解することが、重要です。損傷レベル毎に使用できる筋肉、認知できる感覚領域が変わってきます。随意的に使える機能を利用して、新しい方法で動作を習得し、環境を設定することが重要となります。解剖学と生理学の復習をしっかりと行ってください。						
授業時間外の質問について						
授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えするとともにメールでも受け付けております。授業時間外の場合は、以下のアドレスにメールしてください。						
メールアドレス		tomohiro.nishimura@ocr.ac.jp				
教科書						
書名		脊髄損傷 リハビリテーションマニュアル 第3版				
著者名		神奈川リハビリテーション病院 脊髄損傷リハビリテーションマニュアル編集委員会				
出版社		医学書院				
参考図書						
書名						
著者名						
出版社						
留意事項						
解剖学や生理学の知識が重要ですので、復習をしておいてください。						
本授業は、対面での実施を基本とするが、緊急時など必要に応じて遠隔授業(リアルタイム配信型またはオンデマンド型)に変更することがある。実施方法の変更については、講義支援システムMoodleなどを通じて通知する。						
また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、評価方法を変更することがある。評価方法の変更については各科目担当者より、別途通知する。						

授業科目	地域理学療法学実践論			担当者	太田 幸志 他	(オムニバス)
学科名	理学療法学科	学 年	2年	総単位数	2単位	
		開講時期	後期	選択・必修	必修	
内 容	地域リハビリテーションの実践例を通じて学習し、地域における理学療法士の専門性について理解を深める。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・各分野における地域理学療法の特色と理学療法士の役割について理解する。 ・地域で生活している高齢者や障害者への具体的な関わり方について理解する。 ・生活期の理学療法評価や治療、効果の検証について理解する。 ・医療と介護の連携について学び、理学療法士に求められる役割について理解する。 					
授業計画						
第1回 リハビリテーションマネジメント①						
第2回 リハビリテーションマネジメント②						
第3回 生活期におけるリハビリテーション①						
第4回 生活期におけるリハビリテーション②						
第5回 地域理学療法の実際①						
第6回 地域理学療法の実際②						
第7回 災害時のリハビリテーション①						
第8回 災害時のリハビリテーション②						
第9回 事例検討①						
第10回 事例検討②						
第11回 事例検討③						
第12回 事例検討④						
第13回 事例検討⑤						
第14回 事例検討⑥						
第15回 事例検討⑦						
評価方法						
平常点(受講態度、理解度) 100% ※遅刻、欠席は減点する。						
授業時間外の学習(予習・復習等)について						
毎回授業の復習を必ず行うこと。						
授業時間外の質問について						
授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えします。						
教科書						
書名						
著者名						
出版社						
参考図書						
書名						
著者名						
出版社						
留意事項						
<p>地域理学療法学入門論の内容を理解しておくこと。 グループワークでは積極的に意見交換を行い、主体的に授業に参加することを期待する。</p> <p>本授業は、対面での実施を基本とするが、緊急時など必要に応じて遠隔授業(リアルタイム配信型またはオンデマンド型)に変更することがある。実施方法の変更については、講義支援システムMoodleなどを通じて通知する。</p> <p>また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、評価方法を変更することがある。評価方法の変更については各科目担当者より、別途通知する。</p>						

授業科目	地域理学療法学入門論			担当者	太田 幸志	
学科名	理学療法学科	学 年	2年	総単位数	1単位	
		開講時期	後期	選択・必修	必修	
内 容	地域で生活している高齢者や障害者を支援するための制度や仕組みを学習し、その中で求められる理学療法士の役割について理解する。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で生活している高齢者や障害者の現状と課題について理解する。 ・地域理学療法に関する知識を習得し、説明できる。 ・地域理学療法の関連制度や関連機関との連携について理解する。 ・地域における理学療法および理学療法士の役割について理解する。 					
授業計画						
第1回 地域リハビリテーションと地域理学療法						
第2回 地域理学療法の関連制度・関連法規						
第3回 地域包括ケアシステムと地域連携						
第4回 地域理学療法と介護保険制度						
第5回 介護保険制度におけるリハビリテーション①						
第6回 介護保険制度におけるリハビリテーション②						
第7回 健康増進・介護予防						
第8回 まとめ						
評価方法						
筆記試験 100%						
授業時間外の学習(予習・復習等)について						
<p>毎回授業の復習を必ず行うこと。 毎回の授業の冒頭で、前回の講義内容の確認テストを実施する。</p>						
授業時間外の質問について						
<p>授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えするとともにメールでも受け付けております。 授業時間外の場合は、以下のアドレスにメールしてください。</p>						
メールアドレス		koji.ota@ocr.ac.jp				
教科書						
書名	最新理学療法学講座 地域理学療法学 第2版					
著者名	編著:牧迫飛雄馬 吉松竜貴					
出版社	医歯薬出版					
参考図書						
書名	①シンプル理学療法学シリーズ 地域リハビリテーション学テキスト ②標準理学療法学 専門分野 地域理学療法学 ③最新リハビリテーション基礎講座 予防学					
著者名	①監修:細田多穂 編集:備酒伸彦 樋口由美 対馬栄輝 ②監修:牧田光代 編集:金谷さとみ 原田和宏 ③編集:萩野浩 山田実 久米裕					
出版社	①南江堂 ②医学書院 ③医歯薬出版					
留意事項						
<p>地域理学療法学実践論の理解につながる基礎科目となるため、心して授業に臨むこと。</p> <p>本授業は、対面での実施を基本とするが、緊急時など必要に応じて遠隔授業(リアルタイム配信型またはオンデマンド型)に変更することがある。実施方法の変更については、講義支援システムMoodleなどを通じて通知する。</p> <p>また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、評価方法を変更することがある。評価方法の変更については各科目担当者より、別途通知する。</p>						

授業科目	内科学			担当者	北浦 重孝	
学科名	理学療法学科	学 年	2年	総単位数	2単位	
		開講時期	通年	選択・必修	必修	
内 容	内部障害におけるリハビリテーションの需要は高まっています。本講義では、理学療法士として必要な内科疾患の基礎的な知識を学習し、病態生理を理解することで症候の理解に繋げていきます。					
到達目標	国家試験に対応出来る能力を習得することを目標とします。また、臨床現場においては、疾患や病態生理の理解に基づいてリスク管理を行えることと、適切な理学療法アプローチを提供できることを目標とします。					

授業計画

第1回	内科学とは 内科的診断と治療の実際①
第2回	内科的診断と治療の実際②
第3回	症候学①
第4回	症候学②
第5回	循環器疾患① 解剖生理、主要な症候、診断法
第6回	循環器疾患② 疾患各論①
第7回	循環器疾患③ 疾患各論② 心臓リハビリテーション 理学療法との関連事項
第8回	呼吸器疾患① 解剖生理、症候と病態生理、検査所見
第9回	呼吸器疾患② 疾患各論①
第10回	呼吸器疾患③ 疾患各論② 呼吸リハビリテーション 理学療法との関連事項
第11回	消化管疾患① 解剖生理、症候と病態生理、検査法
第12回	消化管疾患② 疾患各論①
第13回	消化管疾患③ 疾患各論② 理学療法との関連事項
第14回	肝胆膵疾患① 解剖生理、症候と病態生理、検査・診断法
第15回	肝胆膵疾患② 疾患各論 理学療法との関連事項
第16回	血液造血器疾患① 生理、症候、検査法
第17回	血液造血器疾患② 疾患各論 理学療法との関連事項
第18回	代謝性疾患① 代謝の仕組み リハビリテーション栄養①
第19回	代謝性疾患② リハビリテーション栄養② 疾患各論①
第20回	代謝性疾患③ 疾患各論② 理学療法との関連事項
第21回	内分泌系疾患① 内分泌総論 検査法
第22回	内分泌系疾患② 疾患各論 理学療法との関連事項
第23回	腎泌尿器疾患① 解剖生理、症候と病態生理、検査
第24回	腎泌尿器疾患② 疾患各論①
第25回	腎泌尿器疾患③ 疾患各論② 腎臓リハビリテーション 理学療法との関連事項
第26回	アレルギー疾患、膠原病、免疫不全症① 免疫系の働き 疾患各論①
第27回	アレルギー疾患、膠原病、免疫不全症② 疾患各論②
第28回	感染症① 感染症総論(感染症の予防など)
第29回	感染症② 感染症各論 理学療法との関連事項
第30回	まとめ

授業科目	内科学		担当者	北浦 重孝	
学科名	理学療法学科	学 年	2年	総単位数	2単位
		開講時期	通年	選択・必修	必修
内 容	内部障害におけるリハビリテーションの需要は高まっています。本講義では、理学療法士として必要な内科疾患の基礎的な知識を学習し、病態生理を理解することで症候の理解に繋げていきます。				
到達目標	国家試験に対応出来る能力を習得することを目標とします。また、臨床現場においては、疾患や病態生理の理解に基づいてリスク管理を行えることと、適切な理学療法アプローチを提供できることを目標とします。				
評価方法					
<p>筆記試験100%</p> <p>筆記試験(前期試験・後期試験) を実施し、いずれも規定の点数に達する場合に合格とします。</p>					
<p>授業時間外の学習(予習・復習等)について</p> <p>解剖学や生理学の基礎的な内容について、授業を受ける前に復習しておいてください。また、学習範囲が広いので、試験前にまとめて復習するのではなく、講義終了後の出来るだけ早い時期に復習することを勧めます。</p>					
<p>授業時間外の質問について</p> <p>授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えするとともにメールでも受け付けます。授業時間外の場合は、以下のアドレスにメールしてください。</p> <p>メールアドレス f13293@ocr.ac.jp</p>					
<p>教科書</p> <p>書名 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学 第4版</p> <p>著者名 奈良勲/鎌倉矩子/前田眞治</p> <p>出版社 医学書院</p>					
<p>参考図書</p> <p>書名 PT OT 基礎から学ぶ 内科学ノート 最新版</p> <p>著者名 中島 雅美、松本 貴子編</p> <p>出版社 医歯薬株式会社</p>					
<p>留意事項</p> <p>無断欠席や遅刻に注意してください。</p> <p>本授業は、対面での実施を基本とするが、緊急時など必要に応じて遠隔授業(リアルタイム配信型またはオンデマンド型)に変更することがある。実施方法の変更については、講義支援システム Moodle などを通じて通知する。</p> <p>また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、評価方法を変更することがある。評価方法の変更については各科目担当者より、別途通知する。</p>					

授業科目	日常生活活動学実習			担当者	笠原 弘樹 他	(オムニバス)
学科名	理学療法学科	学 年	2年	総単位数	1単位	
		開講時期	前期	選択・必修	必修	
内 容	能力の低下に対しどのように日常生活指導を行うべきか。単なる技術の習得ではなく問題解決のための思考も学習する。中枢神経・神経筋疾患(片麻痺・脊髄損傷)、骨関節疾患、呼吸循環障害、小児・発達障害などの代表的な疾患を取り上げる。					
到達目標	理学療法士として対象者のADLを評価し、ADL Trainingとして動作の指導をリスク管理もと実践できるようになる。					
授業計画						
第1回 オリエンテーション ADLの概念						
第2回 疾患別(整形疾患)演習 (ADL評価とトレーニングの実際)						
第3回 疾患別(整形疾患)演習 (ADL評価とトレーニングの実際)						
第4回 疾患別(整形疾患)演習 (ADL評価とトレーニングの実際)						
第5回 疾患別(整形疾患)演習 (ADL評価とトレーニングの実際)						
第6回 疾患別(整形疾患)演習 (ADL評価とトレーニングの実際)						
第7回 疾患別(整形疾患)演習 (ADL評価とトレーニングの実際)						
第8回 疾患別(片麻痺)演習 (ADL評価とトレーニングの実際)						
第9回 疾患別(片麻痺)演習 (ADL評価とトレーニングの実際)						
第10回 疾患別(片麻痺)演習 (ADL評価とトレーニングの実際)						
第11回 疾患別(片麻痺)演習 (ADL評価とトレーニングの実際)						
第12回 疾患別(片麻痺)演習 (ADL評価とトレーニングの実際)						
第13回 疾患別(片麻痺)演習 (ADL評価とトレーニングの実際)						
第14回 疾患別(脊髄損傷)演習 (ADL評価とトレーニングの実際)						
第15回 疾患別(脊髄損傷)演習 (ADL評価とトレーニングの実際)						
第16回 疾患別(脊髄損傷)演習 (ADL評価とトレーニングの実際)						
第17回 疾患別(小児、発達障害)演習 (ADL評価とトレーニングの実際)						
第18回 疾患別(小児、発達障害)演習 (ADL評価とトレーニングの実際)						
第19回 疾患別(小児、発達障害)演習 (ADL評価とトレーニングの実際)						
第20回 疾患別(小児、発達障害)演習 (ADL評価とトレーニングの実際)						
第21回 疾患別(呼吸循環障害)演習 (ADL評価とトレーニングの実際)						
第22回 疾患別(呼吸循環障害)演習 (ADL評価とトレーニングの実際)						
第23回 実技到達レベルの確認 まとめ						
評価方法						
定期試験(筆記):80%、実技テスト:20% を計画。						
授業時間外の学習(予習・復習等)について						
予習には教科書に記載のある該当疾患分野を読む事。復習には講義時の要点を確認し必要な実技練習を補うこと。						
授業時間外の質問について						
授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えします。						
生じた質問事項は、直接授業後に担当者に問い合わせるか、担当専任教員に相談してください。						

教科書	
書名	「標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学」
著者名	奈良 勲 他監修
出版社	医学書院
参考図書	
書名	
著者名	
出版社	
留意事項	
<p>動作の指導が実践できるようになるためには、適用動作を理解し、対象者の現象を捉える能力が必要となる。運動学の基礎、疾患の知識、指導上の要点を理解し、実際に自己の身体の動きを通じて学習理解を進める。ジャージを着用し実習を行うこと。</p> <p>本授業は、対面での実施を基本とするが、緊急時など必要に応じて遠隔授業(リアルタイム配信型またはオンデマンド型)に変更することがある。実施方法の変更については、講義支援システムMoodleなどを通じて通知する。</p> <p>また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、評価方法を変更することがある。評価方法の変更については各科目担当者より、別途通知する。</p>	

授業科目	脳障害の理学療法			担当者	(非掲載)	□実務教員
学科名	理学療法学科	学 年	2年	総単位数	2単位	(オムニバス)
		開講時期	後期	選択・必修	必修	
内 容	脳血管障害の理学療法の評価・治療目的、実施手順、実施上の留意点について学習し、それらを十分に理解した上で、具体的な評価・治療技術を習得する。					
到達目標	リスクを管理しながら評価・治療を実施し、対象者の病態や障害について理解できるようになる。					
実務教員による授業	臨床経験豊富なエキスパートの講師が、最新の知見を基に講義と実技を行う。					
授業計画						
第1回 オリエンテーション						
第2回 脳血管障害について						
第3回 機能障害について①						
第4回 機能障害について②						
第5回 機能障害について③						
第6回 能力低下について①						
第7回 能力低下について②						
第8回 能力低下について③						
第9回 能力低下について④						
第10回 ADLトレーニング①						
第11回 ADLトレーニング②						
第12回 ADLトレーニング③						
第13回 ADLトレーニング④						
第14回 症例検討①						
第15回 症例検討②						
評価方法						
授業への取り組む態度 50%						
レポート課題 50%						
授業時間外の学習(予習・復習等)について						
授業の復習、実技の復習						
授業時間外の質問について						
授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えするとともにメールでも受け付けております。授業時間外の場合は、教務事務を通じて、回答いたしますので、以下のアドレスにメールしてください。						
メールアドレス			kyomu@ocr.ac.jp			

教科書
書名
著者名
出版社
参考図書
書名
著者名
出版社
留意事項
<p>本授業は、対面での実施を基本とするが、緊急時など必要に応じて遠隔授業(リアルタイム配信型またはオンデマンド型)に変更することがある。実施方法の変更については、講義支援システム Moodle などを通じて通知する。</p> <p>また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、評価方法を変更することがある。評価方法の変更については各科目担当者より、別途通知する。</p>

授業科目	脳神経外科学			担当者	山田 圭一	
学科名	理学療法学科	学 年	2年	総単位数	1単位	
		開講時期	前期	選択・必修	必修	
内 容	脳・神経系における解剖および生理などの基礎を学び、当該領域の疾患を理解し、画像診断も含めた実臨床に結びつく知識を習得する。					
到達目標	国家試験対策となる知識の整理と理解を得て、臨床への応用力を身につける。					
授業計画						
第1回 頭の基本構造						
第2回 脳の局在と機能						
第3回 神経路(下行性)						
第4回 神経路(上行性)						
第5回 脳神経の局在と機能						
第6回 脊髄と末梢神経						
第7回 脳の血管解剖						
第8回 脳室系と脳脊髄液						
第9回 脳卒中患者のリハビリテーション						
第10回 脳血管障害(虚血性病変)						
第11回 脳血管障害(出血性病変)						
第12回 頭部外傷						
第13回 脳腫瘍						
第14回 臨床で用いる各種評価法						
第15回 総括						
評価方法						
筆記試験100%						
授業時間外の学習(予習・復習等)について						
各授業の始めに前回授業で行った内容を復習し、Webを利用したクイズ形式で自身の習熟度を理解する。						
授業時間外の質問について						
授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えするとともにメールでも受け付けております。授業時間外の場合は、教務事務を通じて、回答いたしますので、以下のアドレスにメールしてください。						
メールアドレス			kyomu@ocr.ac.jp			
教科書						
書名						
著者名						
出版社						
参考図書						
書名						
著者名						
出版社						
留意事項						
本授業は、対面での実施を基本とするが、緊急時など必要に応じて遠隔授業(リアルタイム配信型またはオンデマンド型)に変更することがある。実施方法の変更については、講義支援システム Moodle などを通じて通知する。 また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、評価方法を変更することがある。評価方法の変更については各科目担当者より、別途通知する。						

授業科目	評価臨床実習Ⅱ			担当者	専任教員	□実務教員
学科名	理学療法学科	学 年	2年	総単位数	1単位	(オムニバス)
		開講時期	前期	選択・必修	必修	
内 容	指導者、対象者との関わりを通じて理学療法として必要な臨床的思考過程を経験・理解す					
到達目標	1) リスクに配慮して検査・測定技術を実施することができる。 2) 対象者の障がい像を理解しようと行動できる。 3) 臨床実習に向けて臨床現場での学習方法を身につける。					
実務教員による授業	臨床経験豊富なエキスパートの講師が、最新の知見を基に講義と実技を行う。					
授業計画: 実習施設にて5日間、実習指導者の指示のもとで実習を行う。						
理学療法プロセスを可能な限り経験し、理学療法技術(評価・治療)を対象者に対して実施する						
1) 実習指導者の指示に従い、円滑に理学療法業務の補助(整理・整頓、準備、後片付け、機械操作など)を行う。						
2) 理学療法評価を通して対象者とのコミュニケーションを構築する。						
3) 指導者の模倣を通じて、理学療法技術の実際やその目的、思考過程を学習する。						
専任教員は、適宜必要に応じて訪問を実施する。						
学内のゼミでは本実習中で経験させて頂いた症例を報告し、臨床的思考過程や自己の問題解決方法について意見交換する。						
実施時間 45時間						
評価方法						
実習関連(出席・提出物・実習評価表・デイリーノート・実習報告書)60%、及び、客観的臨床能力試験40%で総合的に判断する。						
授業時間外の学習(予習・復習等)について						
実習前には前期授業で学んだことを復習しておくこと。 実習後には実習を通して経験したことを振り返ること。						
授業時間外の質問について						
時間外の質問については、担任教員に連絡すること。						
教科書						
書名						
著者名						
出版社						
参考図書						
書名						
著者名						
出版社						
留意事項						
本授業は、机上での学びを基礎として、学生の立場を知りながら、理学療法評価プロセスに沿った経験をすることで、将来理学療法士として必要となる資質、知識、技術を習得するための評価臨床実習の一部です。学生自身が実習指導者に指導を仰ぎながら学習を進めてください。臨床実習に向けて対象者、指導者を通して資質、知識、技術を習得するための、学習スタイルを身につけることが必要です。						

授業科目	評価臨床実習Ⅲ			担当者	専任教員	□実務教員
学科名	理学療法学科	学 年	2年	総単位数	1単位	(オムニバス)
		開講時期	後期	選択・必修	必修	
内 容	指導者および対象者との関係を通じて、理学療法プロセスを経験することで、対象者の障害像に対する理学療法の目的を検討するための行動ができる。					
到達目標	1) 対象者の個別性に配慮したリスク管理、動作観察および検査測定が実施できる。 2) 対象者の障害像に対して、理学療法の目的を検討することができる。 3) 理学療法士として必要となる資質、知識、技術に気付き、生涯学習の重要性を知り、自分に適した学習方法を見出すことができる					
実務教員による授業	臨床経験豊富なエキスパートの講師が、最新の知見を基に講義と実技を行う。					
授業計画						
<p>実習施設にて4日間、実習指導者の指示のもとで実習を行い、実習後は本実習中で経験させて頂いた症例を共有し、臨床的思考過程や自己の問題解決方法について総まとめを行う。</p> <p>理学療法プロセスを可能な限り経験し、理学療法技術(評価・治療)を対象者に対して実施する</p> <p>1) 実習指導者の指示に従い、円滑に理学療法業務の補助(整理・整頓、準備、後片付け、機械操作など)を行う。</p> <p>2) 理学療法評価を通して対象者とのコミュニケーションを構築する。</p> <p>3) 指導者の模倣を通じて、理学療法技術の実際やその目的、思考過程を学習する。</p> <p>専任教員は、適宜必要に応じて訪問を実施する。</p> <p>臨地での実習後、本実習中で経験させて頂いた症例を共有し、臨床的思考過程や自己の問題解決方法について意見交換する。</p> <p>実施時間 45時間</p>						
評価方法						
<p>学外実習に関する内容(出席・提出物・実習評価表・ダイリーノート)60%、及び、実習後評価(取り組み)40%で総合的に判断する。</p>						
授業時間外の学習(予習・復習等)について						
<p>実習前には前期授業および後期授業で学んだことを復習しておくこと。 実習後には実習を通して経験したことを振り返ること。</p>						
授業時間外の質問について						
<p>時間外の質問については、担任教員に連絡すること。</p>						
教科書						
書名						
著者名						
出版社						
参考図書						
書名						
著者名						
出版社						
留意事項						
<p>本授業は、机上での学びを基礎として、学生の立場を知りながら、理学療法評価プロセスに沿った経験をすることで、将来理学療法士として必要となる資質、知識、技術を習得するための評価臨床実習の一部です。学生自身が実習指導者に指導を仰ぎながら学習を進めてください。今後の総合臨床実習を効率的な学習機会とするために、対象者や実習指導者との関係性の中で、理学療法評価プロセスを通して、対象者の障害像を理解するための行動ができるようになることが必要です。</p>						

授業科目	有痛性障害の理学療法			担当者	入江 保雄	□実務教員
学科名	理学療法学科	学 年	2年	総単位数	1単位	
		開講時期	後期	選択・必修	必修	
内 容	さまざまな疼痛の原因がある中で、機能障害に着目して疼痛の原因を考え、それに対する治療方法を実技を交えて学習する					
到達目標	機能障害の鑑別とその治療方法の理解					
実務教員による授業	臨床経験豊富なエキスパートの講師が、最新の知見を基に講義と実技を行う。 【講師略歴】 入江保雄(理学療法士) 大阪府済生会吹田病院 リハビリテーション科勤務					
授業計画						
第1回 有痛性障害の理学療法総論						
第2回 肩関節周囲の評価(機能解剖)						
第3回 肩関節周囲の評価(機能障害の鑑別評価)						
第4回 肩関節の機能障害に対する治療						
第5回 腰部周囲の評価(機能解剖)						
第6回 腰部周囲の評価(機能障害の鑑別評価)						
第7回 腰部の機能障害に対する治療						
第8回 膝関節の機能解剖、機能障害の鑑別方法とその治療						
評価方法						
筆記試験100%						
授業時間外の学習(予習・復習等)について						
肩、脊椎、膝の解剖学と運動学の予習						
授業時間外の質問について						
授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えします。						
教科書						
書名						
著者名						
出版社						
参考図書						
書名						
著者名						
出版社						
留意事項						
<p>本授業は、対面での実施を基本とするが、緊急時など必要に応じて遠隔授業(リアルタイム配信型またはオンデマンド型)に変更することがある。実施方法の変更については、講義支援システム Moodle などを通じて通知する。</p> <p>また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、評価方法を変更することがある。評価方法の変更については各科目担当者より、別途通知する。</p>						

授業科目	理学療法演習Ⅲ			担当者	2年生担任 他	(オムニバス)
学科名	理学療法学科	学 年	2年	総単位数	1単位	
		開講時期	前期	選択・必修	必修	
内 容	模擬症例を用いた臨床的思考過程を経験し、発表、実技試験を実施する。					
到達目標	評価臨床実習Ⅱ・Ⅲに向けて必要な知識と技術、思考を学習し、情報から障害像を理解するための方法を習得する。					
授業計画						
第1回 オリエンテーション						
第2回 整形疾患と理学療法評価(1)						
第3回 整形疾患と理学療法評価(2)						
第4回 中枢疾患と理学療法評価(1)						
第5回 中枢疾患と理学療法評価(2)						
第6回 協同学習(1)						
第7回 協同学習振り返り(1)・実技練習						
第8回 協同学習(2)						
第9回 協同学習振り返り(2)・総括						
第10回 模擬症例演習(仮の障害像立案)						
第11回 模擬症例演習(医療面接の実施)						
第12回 模擬症例演習(姿勢・動作観察の実施)						
第13回 模擬症例演習(検査測定の実施)						
第14回 模擬症例演習(統合と解釈・目標設定)						
第15回 まとめ発表・総括						
評価方法						
実技到達度 50%、提出課題 50%で総合的に判断する。 ※遅刻・欠席は減点する。						
授業時間外の学習(予習・復習等)について						
適宜課題を提示するので、期日までに作成して提出すること。 必要に応じて、担当教員に報告・連絡・相談を行いながら取り組むこと。						
授業時間外の質問について						
授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えします。						
教科書						
書名						
著者名						
出版社						
参考図書						
書名						
著者名						
出版社						
留意事項						
本授業は、対面での実施を基本とするが、緊急時など必要に応じて遠隔授業(リアルタイム配信型またはオンデマンド型)に変更することがある。実施方法の変更については、講義支援システムMoodleなどを通じて通知する。 また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、評価方法を変更することがある。評価方法の変更については各科目担当者より、別途通知する。						

授業科目	理学療法演習Ⅳ			担当者	2年生担任 他	(オムニバス)
学科名	理学療法学科	学 年	2年	総単位数	1単位	
		開講時期	後期	選択・必修	必修	
内 容	模擬症例を用いた臨床的思考過程を経験し、発表、実技試験を実施する。					
到達目標	評価臨床実習Ⅱ・総合臨床実習に向けて、理学療法プロセスを理解したうえで、臨床的な思考と技能を習得する。					
授業計画						
第1回 オリエンテーション						
第2回 「仮の障害像立案の仕方」						
第3回 「医療面接の仕方」						
第4回 「姿勢・動作観察の仕方」						
第5回 「統合と解釈の仕方」						
第6回 「目標設定・治療プログラム立案の仕方」						
第7回 協同学習(3)						
第8回 協同学習振り返り(3)・実技練習						
第9回 協同学習(4)						
第10回 協同学習振り返り(4)・総括						
第11回 模擬症例演習(1)						
第12回 模擬症例演習(2)						
第13回 模擬症例演習(3)						
第14回 模擬症例演習(4)						
第15回 まとめ発表・総括						
評価方法						
実技到達度 50%、提出課題 50%で総合的に判断する。 ※遅刻・欠席は減点する。						
授業時間外の学習(予習・復習等)について						
適宜課題を提示するので、期日までに作成して提出すること。 必要に応じて、担当教員に報告・連絡・相談を行いながら取り組むこと。						
授業時間外の質問について						
授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えします。						
教科書						
書名						
著者名						
出版社						
参考図書						
書名						
著者名						
出版社						
留意事項						
本授業は、対面での実施を基本とするが、緊急時など必要に応じて遠隔授業(リアルタイム配信型またはオンデマンド型)に変更することがある。実施方法の変更については、講義支援システムMoodleなどを通じて通知する。 また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、評価方法を変更することがある。評価方法の変更については各科目担当者より、別途通知する。						

授業科目	理学療法障害学			担当者	専任教員	(オムニバス)
学科名	理学療法学科	学 年	2年	総単位数	2単位	
		開講時期	後期	選択・必修	必修	
内 容	リハビリテーション医学の中で障害学の位置付けを理解し、各疾患の発生機序・予後と障害を理解する。					
到達目標	各疾患の障害を理解し、評価から治療プログラム立案、リスク管理を理解し、理学療法プロセスを実施出来るようになることを目標とする。					
授業計画						
第1回 中枢神経疾患の障害学(1)						
第2回 中枢神経疾患の障害学(2)						
第3回 脊髄損傷の障害学(1)						
第4回 脊髄損傷の障害学(2)						
第5回 神経筋疾患の障害学(1)						
第6回 神経筋疾患の障害学(2)						
第7回 骨・関節疾患の障害学(1)						
第8回 骨・関節疾患の障害学(2)						
第9回 呼吸器疾患の障害学(1)						
第10回 呼吸器疾患の障害学(2)						
第11回 循環器疾患の障害学(1)						
第12回 循環器疾患の障害学(2)						
第13回 廃用症候群の障害学(1)						
第14回 廃用症候群の障害学(2)						
第15回 慢性疼痛の障害学						
評価方法						
定期試験 100%						
授業時間外の学習(予習・復習等)について						
予習には関連科目の資料や教科書を参照し、疾患の理解、リハビリテーション、リスク管理について把握する。復習には学んだことを理学療法プロセスに落とし込み、臨床に活かせる知識にすること。						
授業時間外の質問について						
授業は専任教員がオムニバス形式で実施します。各分野の担当者に随時質問をしてください。						
教科書						
書名						
著者名						
出版社						
参考図書						
書名						
著者名						
出版社						

留意事項

本授業は、対面での実施を基本とするが、必要に応じて多様なメディアを高度に利用し、教室等以外の場所で授業運営をすることがある。(遠隔授業)授業の実施方法(対面・遠隔)について、変更があった場合は講義支援システム(Moodle)を通じて周知する。また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、「定期試験(筆記試験/期末試験)」による評価方法を「レポート試験」「小テスト」「WEB試験」等に変更する場合がある。評価方法の変更については、各科目担当者より、別途通知する。

授業科目	理学療法評価学Ⅱ			担当者	中平 剛志 他	(オムニバス)
学科名	理学療法学科	学 年	2年	総単位数	2単位	
		開講時期	前期	選択・必修	必修	
内 容	理学療法評価において必要な思考過程を理解し、具体的な評価を計画すること、また評価結果を解釈することについて学習し、理学療法過程の理解を深める。					
到達目標	障害に応じて、理学療法士として必要な情報収集と評価の計画を立案できるようになる。得られた結果を解釈する思考過程を習得する。					
授業計画						
第1回 コースオリエンテーション 理学療法プロセスについて						
第2回 脳障害の評価(1)						
第3回 脳障害の評価(2)						
第4回 脳障害の評価(3)						
第5回 脳障害の評価(4)						
第6回 脳障害の評価(5)						
第7回 脳障害の評価(6)						
第8回 脳障害の評価(7)						
第9回 脳障害の評価(8):単元テスト						
第10回 骨関節障害の評価(1)						
第11回 骨関節障害の評価(2)						
第12回 骨関節障害の評価(3)						
第13回 骨関節障害の評価(4)						
第14回 骨関節障害の評価(5)						
第15回 骨関節障害の評価(6)						
第16回 骨関節障害の評価(7)						
第17回 骨関節障害の評価(8):単元テスト						
第18回 脊髄障害の評価(1)						
第19回 脊髄障害の評価(2)						
第20回 脊髄障害の評価(3)						
第21回 脊髄障害の評価(4)						
第22回 脊髄障害の評価(5):単元テスト						
第23回 発達障害の評価(1)						
第24回 発達障害の評価(2)						
第25回 発達障害の評価(3)						
第26回 発達障害の評価(4)						
第27回 呼吸・循環障害の評価(1)						
第28回 呼吸・循環障害の評価(2)						
第29回 まとめ:ケーススタディ(1)						
第30回 まとめ:ケーススタディ(2)						

<p>評価方法</p> <p>筆記試験100%</p>
<p>授業時間外の学習(予習・復習等)について</p> <p>障害別に理学療法評価を行う上での思考過程を学びます。1年次の理学療法評価学の基本は理解していることを前提に授業を進行します。不足している知識はその都度、各自で補うことが求められます。</p> <p>単元ごとに理解度を確認するためのテストを行います。</p>
<p>授業時間外の質問について</p> <p>随時、受け付めます。</p>
<p>教科書</p> <p>書名</p> <hr/> <p>著者名</p> <hr/> <p>出版社</p>
<p>参考図書</p> <p>書名</p> <hr/> <p>著者名</p> <hr/> <p>出版社</p>
<p>留意事項</p> <p>本授業は、対面での実施を基本とするが、緊急時など必要に応じて遠隔授業(リアルタイム配信型またはオンデマンド型)に変更することがある。実施方法の変更については、講義支援システムMoodleなどを通じて通知する。</p> <p>また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、評価方法を変更することがある。評価方法の変更については各科目担当者より、別途通知する。</p>

授業科目	臨床ゼミナールⅡ			担当者	2年生担任 他	(オムニバス)
学科名	理学療法学科	学 年	2年	総単位数	2単位	
		開講時期	通年	選択・必修	必修	
内 容	<p>【前期】1年次授業の復習、2年次前期授業の準備や補習に加え、評価臨床実習Ⅱ・Ⅲに向けた学習・実技を中心に行う。</p> <p>【後期】前期授業、評価臨床実習Ⅱ・Ⅲで経験した理学療法プロセスを繰り返し、総合臨床実習に向けた取り組みを中心に行う。また、国家試験に向けて、基本的知識の補完を行う。</p>					
到達目標	<p>【前期】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 理学療法評価学Ⅰ(1年次後期)で学習した検査・測定の基本的知識と技能を定着させる。 2) 理学療法評価学Ⅱ(2年次前期)の学習を補完し、理解を深める。 3) 動作観察に必要な知識を補い、適切な観察を行えるようになる。 4) 評価臨床実習Ⅱ・Ⅲで求められる理学療法評価の思考と技能を学習する。 <p>【後期】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 評価臨床実習Ⅱ・Ⅲの経験を振り返り、自己課題に基づいた学習を計画・実施する。 2) 動作観察・分析に必要な思考過程を学習し、適切な統合と解釈を行えるようにする。 3) 国家試験に必要な知識を復習する。 4) 総合臨床実習(3年次)で求められる理学療法プロセスの思考と技能を学習する。 					
授業計画						
第1回 オリエンテーション(前期)						
第2回 理学療法評価Ⅰに関連した講義・演習および個別指導(1)						
第3回 理学療法評価Ⅰに関連した講義・演習および個別指導(2)						
第4回 「立位・立位バランス」の姿勢観察(1)						
第5回 「立位・立位バランス」の姿勢観察(2)						
第6回 「座位・立ち上がり・着座」の動作観察(1)						
第7回 「座位・立ち上がり・着座」の動作観察(2)						
第8回 理学療法評価Ⅱに関連した講義・演習および個別指導(1)						
第9回 理学療法評価Ⅱに関連した講義・演習および個別指導(2)						
第10回 「寝返り・起き上がり」の動作観察(1)						
第11回 「寝返り・起き上がり」の動作観察(2)						
第12回 「歩行」の動作観察(1)						
第13回 「歩行」の動作観察(2)						
第14回 評価臨床実習Ⅱの準備・説明(1)						
第15回 評価臨床実習Ⅱの準備・説明(2)						
第16回 オリエンテーション(後期)						
第17回 評価臨床実習Ⅱの振り返り(1)						
第18回 評価臨床実習Ⅱの振り返り(2)						
第19回 理学療法プロセスや動作観察・分析に関連した講義・演習および個別指導(1)						
第20回 理学療法プロセスや動作観察・分析に関連した講義・演習および個別指導(2)						
第21回 理学療法プロセスや動作観察・分析に関連した講義・演習および個別指導(3)						
第22回 理学療法プロセスや動作観察・分析に関連した講義・演習および個別指導(4)						
第23回 理学療法プロセスや動作観察・分析に関連した講義・演習および個別指導(5)						
第24回 理学療法プロセスや動作観察・分析に関連した講義・演習および個別指導(6)						
第25回 国家試験に向けて必要な知識の補完(1)						

第26回 国家試験に向けて必要な知識の補完(2)												
第27回 国家試験に向けて必要な知識の補完(3)												
第28回 評価臨床実習Ⅲ・総合臨床実習に向けての準備・説明(1)												
第29回 評価臨床実習Ⅲ・総合臨床実習に向けての準備・説明(2)												
第30回 評価臨床実習Ⅲ・総合臨床実習に向けての準備・説明(3)												
<p>評価方法</p> <p>平常点100% 日常的な講義に対する取り組み(発言等の積極性、理解度、グループワークにおける貢献度、提出された課題、実技チェックなど)により評価を行います。</p>												
<p>授業時間外の学習(予習・復習等)について</p> <p>適宜課題を提示するので、期日までに作成して提出すること。</p>												
<p>授業時間外の質問について</p> <p>授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えします。</p>												
<p>教科書</p> <table border="1"> <tr> <td>書名</td> <td>授業の中で資料を配布して実施する。</td> </tr> <tr> <td>著者名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td></td> </tr> <tr> <td>書名</td> <td>国家試験対策コンテンツ</td> </tr> <tr> <td>著者名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td>全国リハビリテーション教育協会</td> </tr> </table>	書名	授業の中で資料を配布して実施する。	著者名		出版社		書名	国家試験対策コンテンツ	著者名		出版社	全国リハビリテーション教育協会
書名	授業の中で資料を配布して実施する。											
著者名												
出版社												
書名	国家試験対策コンテンツ											
著者名												
出版社	全国リハビリテーション教育協会											
<p>参考図書</p> <table border="1"> <tr> <td>書名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>著者名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td></td> </tr> </table>	書名		著者名		出版社							
書名												
著者名												
出版社												
<p>留意事項</p> <p>本授業は、対面での実施を基本とするが、緊急時など必要に応じて遠隔授業(リアルタイム配信型またはオンデマンド型)に変更することがある。実施方法の変更については、講義支援システムMoodleなどを通じて通知する。 また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、評価方法を変更することがある。評価方法の変更については各科目担当者より、別途通知する。</p>												

授業科目	臨床運動学			担当者	文野 勝利	
学科名	理学療法学科	学 年	2年	総単位数	2単位	
		開講時期	後期	選択・必修	必修	
内 容	1) 解剖学・生理学・運動学の臨床的活用方法を提示し、これらの学問の重要性を学ぶ。 2) 力学・モーメント等の復習を行い、臨床での運動学的分析にどのように役立つかを学ぶ。 3) 動作の分析を臨床運動学的思考から展開し、評価～治療展開の結び付け方を学ぶ。					
到達目標	①解剖学・生理学・運動学の基礎知識が臨床的にどのような活用をされ、何故知識としてそれらが大切なのかを理解できること。 ②授業を通して自身の現状と課題が理解でき、課題を埋めるためには何が必要なのかを明確にできること。 ③臨床推論過程の中で運動学的分析が果たす役割を理解できること。 ④臨床的な評価とはどうあるべきかを理解し、アウトプットすることができること。					
授業計画						
第1回 オリエンテーション(授業目標、授業の中での約束事)						
第2回 臨床運動学の概要と臨床的評価の進め方						
第3回 わかりやすい力学と動作分析						
第4回 寝返りの動作分析①						
第5回 寝返りの動作分析②						
第6回 寝返りの動作分析③						
第7回 起き上がりの動作分析①						
第8回 起き上がりの動作分析②						
第9回 立ち上がりの動作分析①						
第10回 立ち上がりの動作分析②						
第11回 立ち上がりの動作分析③						
第12回 歩行の動作分析①						
第13回 歩行の動作分析②						
第14回 各種関節運動に必要な知識の補充						
第15回 各種関節運動に必要な知識の補充						
第16回 後期試験						
評価方法						
筆記試験:60%						
授業に取り組む姿勢:40%						
授業時間外の学習(予習・復習等)について						
<ul style="list-style-type: none"> ・授業の冒頭では、前回の授業の復習を必ず取り入れる。学習効果を高めるために、授業中に実施した内容の復習を次回授業までに必ずしておくこと。 ・解剖学、運動学的知識は臨床運動学を理解する上で基礎となる学問であるため、これらの単元の復習は事前に必ずしておくこと。 ・授業の中では実技をたくさん取り入れるため、授業時間外では学生同士、練習のし合いはしておくように。 						
授業時間外の質問について						
授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えするとともにメールでも受け付けております。 授業時間外の場合は、教務事務を通じて、回答いたしますので、以下のアドレスにメールしてください。						
メールアドレス			kyomu@ocr.ac.jp			

教科書	書名	動作分析 臨床活用講座—バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践
	著者名	石井慎一郎
	出版社	MEDICAL VIEW
参考図書	書名	カパンジー機能解剖学
	著者名	イブラハム・アダルバード・カパンディ
	出版社	医歯薬出版株式会社
留意事項	<p>本授業は、対面での実施を基本とするが、緊急時など必要に応じて遠隔授業(リアルタイム配信型またはオンデマンド型)に変更することがある。実施方法の変更については、講義支援システム Moodle などを通じて通知する。</p> <p>また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、評価方法を変更することがある。評価方法の変更については各科目担当者より、別途通知する。</p>	

授業科目	臨床薬理学			担当者	名徳 倫明	
学科名	理学療法学科	学 年	2年	総単位数	1単位	
		開講時期	前期	選択・必修	必修	
内 容	薬物の基本的事項(作用機序、投与方法、体内動態)を学ぶ。また、薬物療法や副作用等について学ぶ。					
到達目標	薬物が体内に入り、どのように作用を示すかを理解する。また、薬を使用する場合の注意点を理解する。					
授業計画						
第1回 薬理学の基礎知識(1)						
第2回 薬理学の基礎知識(2) (遠隔授業:オンデマンド配信)						
第3回 末梢神経系作用薬 (遠隔授業:オンデマンド配信)						
第4回 中枢神経系作用薬 (遠隔授業:オンデマンド配信)						
第5回 循環器系疾患治療薬 (遠隔授業:オンデマンド配信)						
第6回 呼吸器・代謝系疾患治療薬 (遠隔授業:オンデマンド配信)						
第7回 消化器系疾患治療薬 (遠隔授業:オンデマンド配信)						
第8回 抗感染症薬、抗悪性腫瘍薬、その他の治療薬 (遠隔授業:オンデマンド配信)						
評価方法						
受講態度、試験結果を総合的に評価する。(受講態度:20%、筆記試験:80%)						
授業時間外の学習(予習・復習等)について						
各2時間程度の予習・復習に取り組んでください。予習は、予め配布する資料等をしっかりと読んでください。また復習は、学習した箇所ならびに配布のプリント等の内容について再確認してください。						
授業時間外の質問について						
授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えするとともにメールでも受け付けております。授業時間外の場合は、教務事務を通じて、回答いたしますので、以下のアドレスにメールしてください。						
メールアドレス			kyomu@ocr.ac.jp			
教科書						
書名						
著者名						
出版社						
参考図書						
書名						
著者名						
出版社						
留意事項						
本授業は、必要に応じて多様なメディアを高度に利用し、教室等以外の場所で授業運営を行う。(遠隔授業又はハイブリット型授業) 実施方法や授業計画詳細については、各科目担当者より、別途通知する。 また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、評価方法を変更することがある。評価方法の変更が生じた場合は、各科目担当者より、別途通知する。						

授業科目	老年医学			担当者	笠原 弘樹 他	(オムニバス)
学科名	理学療法学科	学 年	2年	総単位数	1単位	
		開講時期	後期	選択・必修	必修	
内 容	老年期の特徴について様々な角度から理解を深める。総論、各論で構成する。					
到達目標	老年期における疾病と障害を知り、そしてアプローチへと将来理学療法士の仕事をするにあたって、必要な知識を身につけること。					
授業計画						
第1回 総論:高齢者の医療、介護、福祉、保健						
第2回 総論:生理機能の変化と生活課題						
第3回 総論:運動機能の変化とその評価						
第4回 総論:精神機能の変化、高齢者における対応の仕方						
第5回 総論:高齢者に多い疾患とリハビリテーション						
第6回 各論①:急性期病院での理学療法介入①						
第7回 各論②:急性期病院での理学療法介入②						
第8回 各論③:臨床現場からの視点						
評価方法						
筆記試験 100% (試験範囲は総論からの出題)						
授業時間外の学習(予習・復習等)について						
各回、講義内容の主要点を確認し、再整理をして下さい。(復習、整理を要します。)						
授業時間外の質問について						
授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えします。						
生じた質問事項は、直接授業後に担当者に問い合わせるか、担当専任教員に相談してください。						
教科書						
書名		「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 老年学」				
著者名		大内尉義編				
出版社		医学書院				
参考図書						
書名						
著者名						
出版社						
留意事項						
高齢化が進む中、近い将来セラピストになるみなさんにとって必要不可欠な要素を持つ科目である。高齢者の理解につながるため講義内容を的確に把握することを期待する。						
本授業は、対面での実施を基本とするが、緊急時など必要に応じて遠隔授業(リアルタイム配信型またはオンデマンド型)に変更することがある。実施方法の変更については、講義支援システムMoodleなどを通じて通知する。						
また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、評価方法を変更することがある。評価方法の変更については各科目担当者より、別途通知する。						